

ビオトープ天神の里が作る子供の笑顔

活動の経緯

農業者の高齢化により農地や農業用施設の維持管理が困難になる状況の中、平成20年度に自治会、子供会、老人会及び地元農家で構成した「原宿の環境をよくする会」を設立した。平成21年度からは、「NPO法人ビオトープ天神の里を作る会」と一体となって、生態系保全活動、環境保全対策に取り組んでいる。

活動の概要

「原宿の環境をよくする会」では、農地等の地域資源の維持と荒廃した農地等のビオトープづくりを通して生物多様性の保全活動並びに地域内外の交流を促進する共同活動を行っている。



花いっぱい事業（花壇の整備）



ビオトープ整備 「木道の補修作業」

活動の成果、主な実績等

荒廃化した谷津田の解消及び景観形成・生物保護を目的にビオトープとハイキングコースを整備し、自然を活かした憩いの場を創出。

植物や鳥の名前が分かるように、ビオトープへの案内看板や生物紹介の看板等を設置するなど、訪問者へ配慮した取り組みを行っている。

地域の生態系保全のため「セイタカアワダチソウ」等の外来種の駆除を地域共同により実施し、活動を新聞やマスコミを活用して広くPRしている。

三面護岸された排水路は、泥さらいを実施せずゲンジボタルの消息環境を保護している。

この結果、整備したビオトープや保全管理された水田で、ゲンジボタルをはじめ、植物331種・トンボ32種・チョウ65種など、536種の動植物が確認できるようになり、ゲンジボタル・オオムラサキの観察会には、市内から多くの方が参加され地域の方との交流が盛んになっている。